



トーベ・ヤンソン
アウロラ小児病院壁画「遊び」のためのスケッチ
1955年、テンペラ・キャンヴァス、ヘルシンキ市立美術館蔵
Photo/Hanna Kukorelli



タピオ・ヴィルッカ
「ウルティマ・トゥーレ（世界の果て）」グラス
1969年、ガラス、イッタラガラス製作所、コレクション・カッコネン蔵
Photo/Rauno Träskelin



カイ・フランク
「BA キルタ」カップ&ソーサー他
1952年～1975年、陶器（ファイアンス焼）、アラビア製陶所
ヘルシンキ市立博物館蔵、Photo/Yehia Eweis



アンニカ・リマ
「ケイダス（オアシス）」テキスタイル
「ヴァルスタヤンタッキ」コート
1967年、綿・シルクスクリーンプリント、マリメッコ社
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵、Photo/Harry Kivilinna

企画展 令和2年10月10日(土)～11月15日(日)

2 **ザ・フィンランドデザイン展 — 自然が宿るライフスタイル —**

企画展 令和2年11月28日(土)～12月27日(日)

3 **ミュージアムとの創造的対話03 何が価値を創造するのか? (仮)**

企画展 令和3年2月11日(木・祝)～3月21日(日)

4 **生誕110年 岡本太郎 —パリから東京へ**

5 [美術] コラム コレクション展示「美術家大辞典」〈近世以前編〉が終了します

コラム 県立美術館の開館に向けて ～美術ラーニングセンター的機能の充実をめざして～

6 [自然] コラム 鉱物の“硬さ”を探る —モース硬度—

7 [人文] 資料紹介 ふたつの肖像 なかたつ たつまる 池田仲立と龍丸

8 「私たちの県民立美術館」の動き、おしらせ

企画展

ザ・フィンランドデザイン展

— 自然が宿るライフスタイル —

令和2年10月10日(土)～11月15日(日)



アルヴァ・アアルト「キャンチレバーチェア31(現:アームチェア) /
ハイオサナトリウム竣工時のオリジナル製品」、1931年、木(白樺)・合板
木工家具・建築設備社(トウルク)、フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵、Photo /Rauno Träskelin

大地の豊かさとともにある
フィンランドの暮らしとデザイン

日本から飛行機で約10時間、北欧の「森と湖の国」フィンランドは、美しいデザインの宝庫でもあります。人々が長きにわたり暮らしの中で使い続け、そして癒されているそのデザインは、大いなる自然を忘れないという考え方に裏付けられています。フィンランドの人々は建国前から大地の豊かさを生活に取り入れ、その結果生まれたライフスタイルを愛してきました。自然とともにある暮らしは、優れたアーティストやデザイナー、建築家たちを生み、彼らの活躍により、自然の恵みを生かしながら洗練されたデザイン・プロダクツを生産し、皆がシェアする近代的な社会が確立されていきました。その積み重ねは、より優れたフィンランド独自のデザインを生み出し続ける原動力となり、魅力的なその製品は今なお世界各国で支持されています。

【写真1】
レストラン「サヴォイ」卓上の花瓶(筆者撮影)



長く使い続けられるデザイン

眺めの良いレストランの卓上に置かれた、ユニークな曲面をもつガラスの花瓶(写真1)。デザインしたのはフィンランド出身の世界的な建築家でデザイナーのアルヴァ・アアルト(1898年～1976年)です。1937年にオープンしたこのレストラン「サヴォイ」は、アルヴァ・アアルトとその妻アイノ(1894年～1949年)が室内装飾や家具デザインの全てを手がけたヘルシンキ有数の老舗高級レストランで、フィンランドデザインの聖地とも言えるような場所です。この花瓶のシリーズはもともと1936年のデザインコンペで発表されたもので、翌年のサヴォイ開店の際に店内に置かれたことから「サヴォイ・ヴェイス」と呼ばれています。高さや色の異なるバリエーションが幾つかありますが、アアルト没後の1980年代より大量生産され、今でもオンラインショップなどで購入することが可能です。まさにロング・ライフ・デザインの典型です。

彩りに溢れ、創造性に満ちた
デザイン・プロダクツの数々を展示

本展では、ヘルシンキ市立美術館監修のもと、建国前から現代までの200年以上にわたりフィンランドという国を支えた染織、およびガラス工芸の分野の名品を中心に、彩りに溢れ、創造性に満ちたデザイン・プロダクツの数々を、フィンランドのタンペレ市立歴史博物館、コレクション・カッコネン、フィンランド・デザイン・ミュージアムのコレクションを中心とする約250点の作品と約80点の関係資料で紹介いたします。ドラ・ユングがデザインしたタンペラ社のテーブルクロスや、ヴォッコ・ヌルメスニエミがデザインしたマリメッコ社のドレス、アアルト夫妻やタピオ・ヴィルッカラらによる様々なガラス製品など、思わず欲しくなるような作品たちが並びます。もちろんサヴォイの花瓶も、写真とは別バージョンのものが展示されます。フィンランド同様に自然豊かで、優れた手仕事の残る鳥取県で、四季の変化の激しい自然環境と共存するフィンランドの人々の豊かな生活思想と、温かみと洗練さを兼ね備えたそのデザインの世界を楽しんでいただきたいと思います。

(美術振興課 みうらつとむ 三浦 努)



ヴォッコ・ヌルメスニエミ
「ピッコロ」テキスタイル、「トッテリ」ドレス
1953年 / 1959年、綿・シルクスクリンプリント
マリメッコ社、フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
Photo/Harry Kivilinna



ドラ・ユング「線の遊び」テーブルクロス
モデルNO.578、1957年～1974年、麻(ガマ草織)
タンペラ社、タンペレ市立歴史博物館蔵

- 休館日：10月26日(月)
- 観覧料：一般：1000円(前売・20名様以上の団体 / 800円)

関連イベント

会期中の土曜日には、フィンランドのデザイン・文化関係者らによる講演会やワークショップ、担当学芸員やワークショップづくり隊メンバーによる布づくりワークショップなどのイベントの開催を予定しています。

ミュージアムとの創造的対話03 何が価値を創造するのか？(仮)

令和2年11月28日(土)～12月27日(日)

(主催) 創造的対話展実行委員会

鳥取県立博物館は、昭和47年の開館以来今日まで、調査研究に基づく資料の収集や展覧会及び教育普及プログラムを通して、文化芸術を保存し、次世代へ継承していくための活動を行ってきました。これをさらに広げ、これからのミュージアムの可能性を開く試みとして、2017年にシリーズ展「ミュージアムとの創造的対話」を開始しました。本シリーズでは、ミュージアムを巡る問いを契機に、国内外の優れたアーティストによる実験的で多彩な表現を展示室の内外に展開させることで、思考を促し、人やモノ、場との対話を重ねながら、その現代的な意味を探ることを目的としています。



原口典之《F4Phantom》2009 Photo/©鈴木理策

作品、そしてコレクションの価値とは

第3回目の今回は、ある個人コレクターのコレクションと、当コレクションに収集されているアーティストによる新旧作の展示を通じて、美術作品における「価値」とは何か、それはいつどのように作られるのかについて考察します。「アーティスト」たちは、自らのアイデアや知見を頼りに、様々な素材を用いて作品を制作し、新しい「価値」を提示する存在です。一方、ミュージアムは作品を展示したり収集したりすることで、なんらかの歴史的あるいは美学的な価値を見出し、時にその価値を高める役割を果たします。「ミュージアム」とは、単に作品を展示する空間・ハコ

だけではなく、作品を収集、保管し、研究を重ねることで、価値を創出する制度であり、権威そのものとも言われてきました。「コレクター」もまた、作品に何らかの価値を見出しそれを集めるという点でミュージアムの姿と重なりますが、その目的は各々のコレクターによって異なります。とりわけ同時代の作品をコレクションすることについては、ミュージアムに先駆けて価値づけを行い、ある時はアーティストの作品の理解者として、またある時は経済活動を支えるパトロンとして、大きな役割を担っています。

これからのコレクションの展開と可能性

今回の展覧会で紹介する「Aコレクション」は1980年代から日本の現代アートを中心に収集が始まり、現在そのコレクション数は数百点にのぼります。特徴的なのは、数十年にわたって特定の作家の作品の変遷を見続け、作品購入を通じた支援だけでなく、作家活動のアーカイヴやプロジェクトへの参画にまで活動を広げていることです。それはグローバルな資本主義社会におけるアートマーケットとは別の、新しいアートの循環システムともなり得る可能性を秘めています。

本展では、この秘蔵のコレクションを公開すると同時に、現在進行形で進化するアーティストたちの新作を展示室および倉吉市内各所で紹介することで、その価値を検証し、それが創造される契機^{あかい}としたいと思います。

(美術振興課 赤井あずみ)



村岡三郎
《落下する熱》
1992年
photo/ 西元洋子

- 休館日 : 12月14日(月)
- 観覧料 : 一般 / 600円
(前売・20名様以上の団体・大学生・70歳以上 / 400円)

関連イベント

会期中の土曜日には、講演会、展示解説などのイベントを予定しています。

令和3年2月11日(木・祝)～3月21日(日)

(主催)「岡本太郎展」実行委員会

2020年の年明け以降、世界中が新型コロナウイルスの猛威に脅かされ、人のあらゆる営みが見直されています。展覧会の運営も例外ではありません。会期中での閉幕、開幕の延期、開催の中止、新しい生活様式のなかでの取組みと模索——同ウイルス感染症の拡大を受けて、多くの館が奔走しています。実は本展覧会は元々、「岡本太郎とクルト・セリグマン」というタイトルを掲げて巡回展として準備を重ねてきたものです。言わずと知れた日本を代表する前衛作家、岡本太郎(1911-96年)と、彼が戦前のパリで親交を深めて以来の盟友、クルト・セリグマン(1900-62年)との交流関係に着目し、両者の友情が戦後日本の美術にもたらした意義を検証しようとする企画でした。しかしながらコロナ禍により海外から作品を借用することが困難になったことを受け、苦渋の決断の末、巡回展を解体し、当館では企画展として展覧会を構成し直すことになったわけです。

戦前のパリで培われた前衛芸術家たちとの交流

本展覧会では、先立つ企画を部分的に引き継ぎつつ、奇しくも会期中に生誕110年を迎える岡本太郎に焦点を据え、その思想や作品の素地を培った戦前の10年に及ぶパリ時代と、多岐にわたる活動を展開した帰国後の東京での動向を照応させて展覧します。1930年に渡仏した岡本は、ハンス・アルプやカンディンスキーらが所属していた前衛芸術家の団体、アプストラクシオン=クレアシオン(抽象=創造)協会に参加し、同地で抽象絵画を牽引する芸術家らと親しく交流しました。なかでも強く共鳴したセリグマンと「ネオ=コンクレティスム(新具象主義)」を標榜すると、抽象を離れて具体的な要素の描出へと軸足を置くようになります。

岡本太郎《傷ましき腕》
1936年(1949年再制作)、油彩・カンヴァス
川崎市岡本太郎美術館蔵



こうした岡本らの動向に日本国内で素早く反応したのが下郷羊雄らシュルレアリスムの画家たちであり、同時期

に制作された幾つかの作品にネオ=コンクレティスムをめぐる解釈と実験の過程がみとめられる点は、興味深い現象と言えるでしょう。

戦後日本の美術を牽引した岡本太郎のオーガナイザーとしての側面に着目

大戦後、東京を拠点として活動を再開した岡本は、絵画制作のみならず、パリ時代からの民族学・社会的な関心のもとに全国の土俗的な文化の取材を進めるかたわら、「夜の会」をはじめとするジャンル横断的な団体の結成に深く関わり、とくに新人作家のあいだで強い存在感を示すようになります。同時に、戦前のパリで知遇を得た作家との交流をもとに彼が企画した幾つかの展覧会は、戦後日本における美術の動向に大きな足跡を残しました。ニューヨークに拠点を遷していたセリグマンの選出によるアメリカ人作家の作品を加えた「第3回読売アンデパンダン展」(1953年、東京都美術館)と、ジャン・フォートリエ、カレル・アペル、カポグロッシらの作品を紹介した「世界・今日の美術展」(1956年、日本橋・高島屋)は、まさしくメルクマールとなる展覧会と位置付けられるものです。こうした展覧会に出品した主要な作家の作品とあわせ、これをひとつの契機として国内で紹介され関心が深められた同時代の欧米の美術を展覧することで、企画者たる岡本が持ち得た視点、そして彼がオーガナイザーとして戦後日本のアートシーンにおいて果たした役割を検証する機会になることを期待します。

(美術振興課 友岡 真秀)

シルジエ・ヌウ《無題》1957年、油彩・カンヴァス
一般財団法人 草月会蔵 撮影ノマイク工房
©ADACP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2020 C3303



- 休館日: 会期中の月曜日
- 観覧料: 一般/800円
(前売・20名様以上の団体・大学生・70歳以上/600円)

関連イベント

会期中の土曜日には、講演会、展示解説、映画上映会などのイベントを予定しています。

〈近世以前編〉が終了します

約1年半にわたって展示を重ねてきた「美術家大辞典」〈近世以前編〉は10月11日で閉幕する〈ま行以降の美術家〉をもって終了します。ご紹介した作家は171名、展示した作品は238点。1階の美術常設展示室では、約1か月半ごとに11回の展示替えを行いました。短いスパンでの情報集めや展示替え作業は、マラソンを走っているかのような気分でした。今はほんのささやかな感慨に浸っていますが、至らぬ点も多かったことと感じています。いかがでしたでしょうか。

さて、〈近世以前編〉では、鳥取県とは直接関係ない画家や僧侶、幕末の志士たちや、明・清時代の作家たちも多く登場しました。実はこれらの作品のほとんどは、県内の収集家が明治から戦後にかけて収集し、当館が一括で受贈したコレクションに属しています。これらのコレクションには、収集家の歴史観やコレクション観が反映されていますが、脈絡なく作家を紹介する「美術家大辞典」という形式だからこそ、結果的に県内の収集家たちが誰の作品を選び、どのようなコレクションを形成した



美術常設展示室〈近世以前編〉展示風景

かと言う問題が改めて浮かび上がりました。また、同時にそれらが鳥取の美術の流れとも大きく連動していることにも気づきます。〈近世以前編〉は、個人コレクションを包摂する総体としての博物館コレクションと、鳥取の美術史との関係を再認識させる契機ともなったように感じます。

なお、「美術家大辞典」は、2021年2月20日から開催予定の〈近現代編 ま行以降の美術家〉で最終回を迎えます。(会期が変更となる可能性があります。最新情報はHP等でご確認ください。)

(美術振興課 やまだ しゅうへい 山田 修平)

県立美術館の開館に向けて ～美術ラーニングセンター的機能の充実をめざして～

昨年度から鳥取短期大学と連携した取組を始めて、今年で2年目。今年も同大で対話型鑑賞を行いました。今年度は、これまではない試みとして、学生の皆さんに、対話型鑑賞をリードするファシリテーター(進行役)にも挑戦していただいています。感想には、「肩の力を抜き、自由な気持ちで臨めた事がとても楽しかった。大人しくて無口?と思っていた子が、沢山の思いを話してくれて、何故かとても嬉しかった」等、学生の素直な気持ちがあふれ、私たちスタッフは新鮮な感動を得ました。この取組には、令和6年度の開館以降の事業として実施を計画している「県内小学生のバス招待」で、学生の皆さんが今回の経験を生かしてファシリテーターとなり、来館する子どもたちと作品との豊かな出会いの場をつくるための美術館スタッフとして活躍してほしいという願いも込めています。

社会の急速な変化が予想されるこれからの時代において、一人一人が未来の創り手となるためには「豊かな感性」が必要だと言われています。新しい美術館でど

のような「美術を通じた学び」が展開できるか、今後もそのあり方を考えていきたいと思えます。

(美術振興課 とのむら あや 外村 文)

学内にある工芸品の前でファシリテーターに挑戦する学生



学生の感想より

- みんなの意見を掘り下げたり、そこから新しい意見が出たりするのが楽しかった。
- 自分と全く同じ考えの人はいないから、周りの考えも取り入れることで、自分の価値観や人間関係などの見え方が変わってくると思った。



鉱物の“硬さ”を探る —モース硬度—

鉱物を探る手がかり

水晶やダイヤモンドなど、鉱物は現在5000種以上が知られています。それぞれ異なる化学組成で構成されており、その組成の違いによってさまざまな色や透明度、形をしています。鉱物を同定する(種類を決める)とき姿形を観察することが大きな手がかりとなりますが、似た鉱物があったり、鉱物の一部分しか観察できなかつたりすると、同定が難しくなります。こういう場合、鉱物を探る手がかりの一つ、硬さの指標“硬度”が役に立ちます。

鉱物における硬度

鉱物はもちろん、金属などの工業材料や水(軟水・硬水)など、さまざまな硬度指標が存在します。鉱物を同定するときは、“モース硬度”と呼ばれる「2種の鉱物をひっかき合わせ、どちらに傷がつくか」という硬度の指標が用いられます。この指標は、ドイツの鉱物学者フリードリッヒ・モースによって考案され、方法が簡単なので鉱物の同定に広く用いられています。調べたい鉱物とモース硬度計で示されている10種の基準鉱物(写真1、表1)をひっかき合わせて求められ、値が大きいものほど傷がつきにくく、“硬い”と表現します。ただし、あくまで「ひっかきに対する硬さ」なので、硬度がもっとも大きいダイヤモンド(硬度10)もハンマーで叩くと壊れてしまうことには注意が必要です。



写真1. モースの硬度計(10種の基準鉱物) 個人蔵

| 硬度 | 鉱物 | 身の回りの基準 | 目安(硬度) |
|----|-------------|--------------------------|-----------------|
| ① | 滑石(かっせき) | 指の爪で簡単に傷つけられる | |
| ② | 石膏(せっこう) | 指の爪で傷つけられる | 人間の爪(2.5) |
| ③ | 方解石(ほうかいせき) | 10円玉で傷つけられる | 10円玉(3.5) |
| ④ | 螢石(ほたるいし) | ナイフで簡単に傷つけられる | ナイフ(4~6)、釘(4.5) |
| ⑤ | 燐灰石(りんかいせき) | ナイフで何とか傷つけられる | ガラス(5)、押ピン(5~6) |
| ⑥ | 長石(ちようせき) | ナイフで傷つけられず、ガラスに何とか傷つけられる | 永久歯のエナメル質(6) |
| ⑦ | 石英(水晶) | ガラスに簡単に傷つけられる | 鋼やすり(6.5) |
| ⑧ | トパーズ | ガラスにとっても簡単に傷つけられる | |
| ⑨ | 鋼玉(こうぎよく) | ガラスが切れる | |
| ⑩ | ダイヤモンド | ガラスが切れる | |

表1. モース硬度の一覧

実際に石膏(硬度2:写真2-A)と方解石(硬度3:写真2-B)をひっかき合わせてみると、石膏には傷がつきますが(写真2-C)、方解石に傷はつきません(写真2-D)。

モース硬度の求め方

例1. 鉱物Xで長石(硬度6)をひっかくと長石に傷がつく。また、長石で鉱物Xをひっかくと鉱物Xに傷がつく。この場合、鉱物Xの硬度は6です(両方に傷がつかなかった場合も同様です)。

例2. 鉱物Yで長石(硬度6)をひっかくと長石に傷がつくが、長石で鉱物Yをひっかくと傷がつかない。さらに、鉱物Yで水晶(硬度7)をひっかくと傷がつかず、水晶で鉱物Yをひっかくと鉱物Yに傷がつく。この場合、鉱物Yの硬度は長石(硬度6)よりも大きく水晶(硬度7)よりも小さいので、6.5と示します。

鉱物図鑑にはさまざまな鉱物の硬度が書かれていますので参考してみてください。

このように、鉱物の同定に困ったとき、鉱物をひっかいて硬度を調べることが同定の手がかりになります。モース硬度計がなくても、身の回りのもので硬度を調べることができます(表1)。また、モース硬度計は本格的な鉱物ショップやインターネット通販で手に入れることができますので、探してみてください。いかがでしょうか。

たなべ よしき
(学芸課 田邊 佳紀)

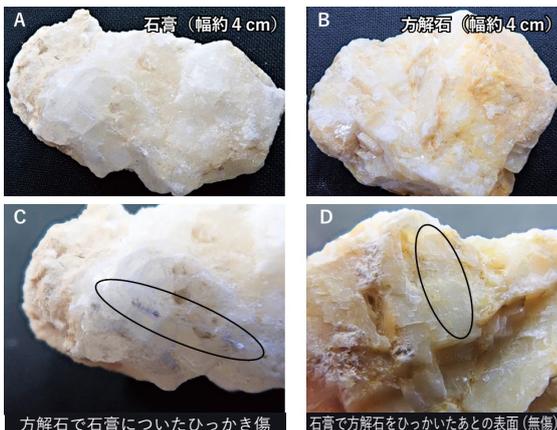


写真2. 鉱物とひっかき傷(個人蔵)



ふたつの肖像

なかたつ たつまる

池田仲立と龍丸

鳥取藩主の肖像といえば、藩主菩提寺・興禅寺(鳥取市)旧蔵で、現在、当館が所蔵する歴代藩主肖像がよく知られています。一方、鳥取藩の2つの分家、東館と西館の当主の肖像は、これまで1点も紹介されたことがありません。近年、当館が行った興禅寺の所蔵品悉皆調査のなかで、東館9代仲立とその長子・龍丸の肖像(図1、2)を見いだすことができたので紹介したいと思います。

池田仲立の生涯

池田仲立は、東館8代仲律の三男として誕生します。実兄は本家を継ぎ10代鳥取藩主となる池田慶行、実姉は11代藩主慶栄の妻となる聡子(宝隆院)です。仲立は嘉永3年(1850)父の跡を継ぎますが、元治元年(1864)6月、禁門の変へと向かう幕末政局のなかで、長州藩と敵対しようとする鳥取藩の姿勢に憤り、24歳の若さで自死します。



図1 池田仲立肖像(興禅寺蔵)

仲立と龍丸の肖像から

緋色の東帯姿の仲立肖像は、死後、法事に制作されたものと考えられますが、作者不明です。この肖像にはよく似た図像が存在します。それは仲立の兄・慶行のもので(図3)、顔の表情、東帯や太刀の描き方がそっくりです。慶行肖像は、嘉永元年(1848)同人の死の直後、藩絵師・沖一峨により制作されました。仲立の肖像は、おそらく慶行肖像を参考に制作されたと考えられることから、作者は一峨の門人の絵師ではないかと思われます。

もう一方の像主である龍丸は、文久元年(1861)6月に仲立の長男として生れ、翌2年7月、わずか1歳で夭逝します。肖像では、左手に小槌、右手で着物を握り、裾から足を覗かせる、前掛け姿で描かれますが、その作者は不明です。龍丸の背後には、赤い裂地の「守り刀」と「守り袋」が描かれますが、本図の表具(一文字や風帯)はその裂地の実物を用いて作られています(図4)。遺品を転用するあたり、龍丸に対する強い思いを感じますが、制作依頼者は愛児を失った仲立やその家族が想定される肖像です。

(学芸課 大嶋 陽一)



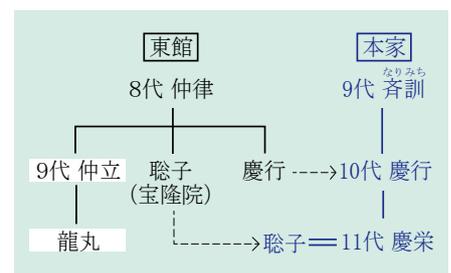
図2 池田龍丸肖像(興禅寺蔵)



図3 池田慶行画像(当館蔵)



図4 転用された一文字(上)と描かれた守り刀等(下)



池田仲立略系図

「私たちの県立美術館」の動き

美術館の設計デザインが決定

新型コロナウイルスの広がりには博物館の事業にも様々な影響を与えていますが、新しい県立美術館に向けた準備は令和6年度の開館に向けて、着々と進んでいます。

令和2年1月の県民参加型公開プレゼンテーションを経て、美術館の設計に取り組むのは世界的な建築家の横文彦さんが代表を務める株式会社横総合計画事務所です。横さんは建築分野のノーベル賞とも呼ぶべきプリツカー賞の受賞者であり、ヒルサイドテラス(東京都)や幕張メッセ(千葉県)、京都国立近代美術館の設計者としても知られています。隣接する広大な大御堂廃寺跡に向かって広がる開放的なデザインと大屋根が印象的で魅力的な美術館の設計デザインとなっています。

建築の特徴は倉吉パークスクエアとつながる『ひろま』と『えんがわ』。美術館の固いイメージを一新し、芝生からそのまま内部につながる一階部分は、文字どおり県民



外観イメージ

に開かれた広間としてのフリーゾーンです。そこで開かれているワークショップやイベントを横目に来場者は二階と三階の展示室へと誘われます。遊びと鑑賞、学びと展示、二つの顔のある新しいタイプの美術館を目指していますのでご期待ください。

美術館に関する情報は、こちらのホームページをご覧ください。
<https://www.pref.tottori.lg.jp/bijyutsukanseibi/>

(美術振興課 尾崎 信一郎)



鳥取県ミュージアムネットワーク連携事業

米子市美術館との共同企画展を開催します！

2020年に生誕100年を迎える岩宮武二、杵島隆、ふたりの日本を代表する本県ゆかりの写真家の仕事を、米子市美術館と当館のコレクションを中心に顕彰します。



杵島 隆
 《コマージュル獄作-たばこ-》
 1954年 ゼラチン・シルバー・プリント

生誕100年記念『岩宮武二 目前心後』

会期 2020年9月6日(日)～9月27日(日)
 会場 米子市美術館(米子市中町12) [水曜休館]

生誕100年記念『杵島隆：不滅のパイオニア精神』

会期 2020年10月25日(日)～11月29日(火)
 会場 米子市美術館 [水曜休館]

会期 前期 / 2020年10月14日(水)～12月6日(日)
 後期 / 2020年12月9日(水)～2021年1月31日(日)
 会場 鳥取県立博物館

お知らせ

tottorimuseum.art

Instagram始めました！

2020年5月に当館美術部門学芸チームによるInstagramを開設しました。当館の美術コレクションや展示作品を写真で紹介するほか、美術にまつわる様々なトピックを設け、考えていきます。

<https://www.instagram.com/tottorimuseum.art/>



「#美術をめぐる場をつくる」「#美術家大辞典を読む」「#鳥取におけるモザイク表現を考える」等の検索でもアーカイブをご覧いただけます。

イベントの開催情報など最新のトピックをホームページに掲載しています。さらにFacebookやInstagramでも情報提供していきますので、この機会に是非フォローをよろしくお願いいたします。



※ 当館ホームページの上記のバナーからでもアクセスできます。

鳥取県立博物館ニュース No.30

令和2年(2020年)9月25日発行

編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地

TEL 0857(26)8042(代)

FAX 0857(26)8041

URL <https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/>

E-mail hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp



博物館 HP

- 入館料：常設展／一般180(150円) ()内は20名様以上の団体料金
 - 開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで) 19時(入館は18時30分)まで開館する場合あり。詳細はお問い合わせください。
 - 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日が休館日) 国民の祝日の翌日(土、日、祝日の場合を除く) 年末年始(12月29日～1月3日)
- ※ 具体的な休館日等は、ホームページでご確認ください。



- JR鳥取駅からバスで
 - ①100円バス「くる梨」緑コース「①仁風閣・県立博物館」下車すぐ
 - ②ループ麒麟獅子「③鳥取城跡」下車すぐ
 - ③砂丘・湖山・賀露方面行「西町」下車、約400m
 - ④市内回り岩倉・中河原方面行「わらべ館前」下車、約300m
 - JR鳥取駅からタクシーで…約10分
 - 鳥取砂丘コナン空港から…鳥取駅行連絡バス「西町」下車、約400m
 - お車で…鳥取自動車道・鳥取ICまたは鳥取西ICより約15分
- ※ 当館駐車場21台駐車可能・満車の場合は県庁北側駐車場【無料】へ

お客様の満足の笑顔へ…
MORRIX
 株式会社モリックスジャパン
 TEL 0857-23-3641
 本社 鳥取市南町2-3-6
 倉吉店 倉吉市下田中町870 中瀬ビル3F
<http://www.morrix.co.jp/>

We Find the Way
日本通運
 NIPPON EXPRESS
 鳥取支店 0857-28-0202